

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	三大災害体験者の声に学び、後世に伝える「橋北地区の記憶遺産継承」事業
事業主体 (連絡先)	橋北まるごと博物館研究会 (0265-24-0310)
事業区分	安心・安全な地域づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	559,254 円 (うち支援金: 429,000 円)

事業内容

- ・橋北地区を襲った三大災害「飯田大火」「内山煙火工場爆発事故」「三六災害」の体験者の生の声を記憶遺産として後世に伝えるための体験記録集を製作する。
- ・過去の災害体験を直接体験者から聞くことにより、現在の自分の災害への備えについて振り返るとともに、これからの防災・減災について考える。
- ・子どもたちへ、自分たちの住む地区の災害の記憶を、体験談記録集を資料として活用しながら体験者から伝えることで、地域の歴史への理解と防災意識を高める。



【子どもたちに災害の体験談を語り伝える】

【目標・ねらい】

- ①地域をあげての取り組み。主体的な関わり。
- ②住民の防災意識の高まり
- ③記憶遺産の次世代への継承

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①体験談候補者の情報提供について、地区内 21 自治会や町内会が協力した。当初聞き取り調査を予定していたが、多くの方が自主的に体験談を執筆し寄稿いただいた。
- ②三六災害についての学習会や体験談を聞く会に、多くの住民が参加し、改めて自分の防災対策について見直す機会となった。
- ③小学生に体験者の生の声で当時の様子を語り、また資料として写真などを活用することにより、橋北地区の記憶遺産を次世代へ継承することができた。

※自己評価【 B 】

【理由】

各種学習活動により、住民の防災意識を高めることができたが、体験談記録集の編集作業に予想以上に時間がかかったため、体験記録集の活用については十分な展開ができなかったため。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

小学校へ副教材として寄贈した体験談記録集を活用し、体験者が直接伝える「語り部活動」を進めていく。

地域全体の防災意識を高めるため、地域での防災学習に役立てていく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある